

# 子牛のコクシジウム症

根室北部事業センター 第一家畜診療課 獣医師 杉山友人

牛コクシジウム症は、原虫である *Eimeria* 属コクシジウムの感染により引き起こされる疾病です。牛コクシジウム症は臨床症状を呈さない潜在性が多いとされています。3週齢～6ヵ月齢の子牛が罹患しやすく、時に重篤な下痢症を発症します。

コクシジウムは経口的にオオシストが牛の体内に侵入後、その腸管粘膜上皮細胞に寄生、増殖します。その過程で、宿主である牛の腸管にダメージを与え下痢や血便の症状を与えます。

小腸上皮細胞が損傷を受けるとその吸収効率が低下し、飼料効率が悪化することが指摘されています。また、コクシジウム症は子牛の増体に対し、長期にわたり大きな悪影響を与え、成長遅延の可能性を高め、合併症の併発による治療コストなどの弊害が多岐にわたります。

## ○コクシジウムの予防

●物理的な排除…牛舎を清潔にし、飼育環境下のオオシストを口から摂取する機会を減らすことで予防できます。排出されたオオシストは、牛から牛へ直接うつるだけでなく、飼養環境から他の牛へ感染するため、敷料の交換、子牛のハッチ、牛舎の洗浄など日常の衛生管理に気を付ける必要があります。コクシジウムは消毒剤には強い抵抗性を示します。

・牛用バイコックス（トルトラズリル）

発症防止薬（予防）…宿主細胞寄生ステージに対してコクシジウム原虫の生活環に幅広く作用します。

投与タイミング…農場毎に異なります。農場でコクシジウム症の潜伏期を考慮し、農場でコクシジウム症が多発する日齢の少なくとも1週間前に投与（例…1ヶ月齢で多発する農場であれば、2～3週間齢で投与）。群飼育への移行期など、ストレスがかかる時期に多発する農場であれば、その移行期に投与します。

単回経口投与で長期的で高い効果  
休薬…59日

給付外薬（予防薬）

・ベコクサン（ジクラズリル）

局所的に腸管上皮作用し、寄生したコクシジウムのオオシストの形成を阻害します。

コクシジウム感染に対する「治療」と、「下痢症の発症の防止（予防）」とを両立。

牛は本来コクシジウムの感染によって再感染抵抗性を獲得できる免

（治療）  
複数回経口投与が必要、安価  
休薬…7日  
給付薬

疫機能を持っています。ペコクサンは免疫が発動するための感染を阻害せず、子牛本来の免疫獲得力を活かした抗コクシジウム剤です。

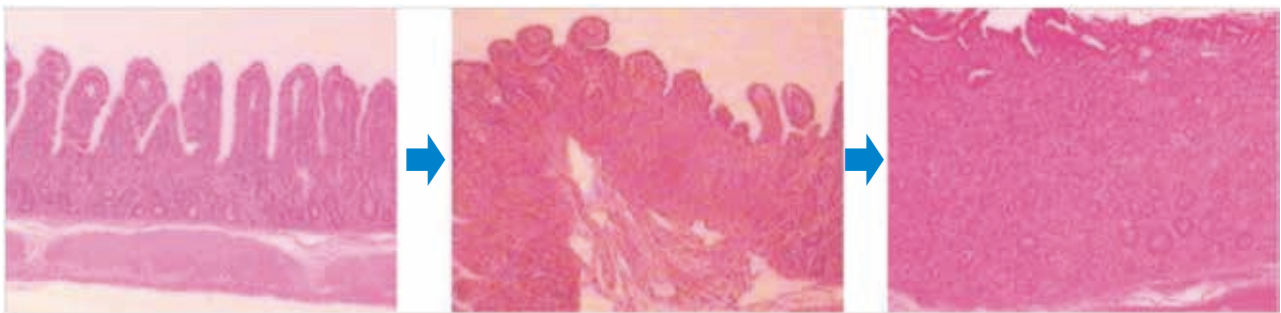
投与のタイミング・バイコックス同様、農場毎に異なります。コクシジウム症の発症ピークの1週間前程度での投与が理想的

単回経口投与

休薬期間・1日（腸管局所で作用し、体内にほとんど吸収されません。）

治療での投与は給付、予防では給付外

コクシジウム症の発症タイミングは、各農場の飼養管理やコクシジウム・オーシストの汚染度合、個体差（ストレス/免疫レベル）を考慮することが大切です。バイコックスとペコクサンは、適切なタイミングでの投薬時期がコクシジウム症の発症防止に大きく関わってきます。そのため獣医師に、診療・予防プログラムを相談してみたいかがでしょうか？



感染前

感染初期

感染後期



臨床症状なしあるいは軽度



臨床症状発生  
(下痢血便など)



写真提供：(株)エランコ